

学校の在り方地区検討委員会（三八地区）
【第1回】概要

日時：令和7年11月25日（火）

14:30～17:00

場所：八戸プラザホテル 別館芙蓉西

<出席者>

委員

沼澤委員、若宮委員、山本委員、佐藤委員、齋藤委員、原委員、澤田委員
尾形委員、濱浦委員、今井委員、三橋委員、佐々木原委員、一戸委員、田畠委員
岡本委員、後藤委員、米内山委員（進行役）

代理

北上氏（高橋委員代理）

1 開会

2 委嘱状交付

3 事務局説明

事務局が青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針及び資料2について説明した。

○ 県立高校には様々な自治体から生徒が通学していることから、県立高校はあらゆる自治体と連携すべきと考えるが、現状は所在する自治体との連携が主となっている。

○ 県立高校の再編を進めることにより、地域の担い手の育成が進まなくなると考えるが、地域振興に取り組んでいる知事部局の施策の方向性と矛盾するのではないか。

→（事務局）青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針は、県の基本計画の内容を踏まえるとともに、総合教育会議で知事と情報共有しており、知事部局の方向性と大きく異なるものではないと考える。

○ 地理的な要因から教育を受ける機会に差が生じないよう、高校が所在する市町村が他市町村からの生徒の受入態勢を整備するよう県も含めて議論するべきである。

本委員会として望ましい学校配置を取りまとめるに当たり、必ずしも1案に絞り込むのではなく、2～3案程度とするとともに、最終的には令和8年度に県教育委員会が策定する前期実施計画をもって学校配置を決定することを確認した。

4 意見交換

(1) 学校の在り方について

- 高校には地域の跡取りを育てる役割もある。
- デジタルスキルを身に付けた人財や主体的に取り組むことができる人財、協働的に働くことができる人財の育成が必要である。
- デジタルや地域課題の解決、探究的な学びに重点的に取り組むことができる高校が必要である。なお、探究的な学びを実施する上で、地元企業ではインターンシップの受入れや学習のサポート、外部講師の派遣等に協力することが可能である。
- 職業教育を主とする専門学科では学べないような横断的な学びを提供する高校が必要である。
- 農業は三戸郡の基幹産業であり、農業の人財育成の観点から、農業高校は地域に必要である。前期実施計画には、農業高校を維持するという強いメッセージを盛り込んでほしい。
- 国の高校授業料の無償化により私学志向の更なる高まりが予想されるが、このことについて、令和10年度以降の募集学級数の見込みに反映しているのか。
→（事務局）授業料無償化など国の動向による影響を現時点で精緻に見込むことは難しいが、これまでも私立高校への入学状況を勘案した上で算出しており、近年の授業料無償化の影響は反映されている。
- 教員不足では高校の魅力づくりを進めることができなくなるため、対応として、DXの活用や民間企業から講師を派遣してもらうことが考えられる。
- こどもが社会に出て活躍するためにどのような教育活動が適切なのか検討する必要がある。
- 人財育成の観点から職業教育を主とする専門学科は必要であり、入学者数を確保する施策が必要である。
- 人財育成の観点から、中学生のニーズを踏まえるだけでなく、地域にとって必要な人財像を議論する必要がある。
- こどもが自由に目標を持つことは否定しないが、こどもに地域で活躍することを目標としてもらうような取組も必要ではないか。

- 遠方の高校の授業をオンラインで受講し、在籍校の単位に互換させることも考えられる。
- 高校では、人とのつながりやお金について学ぶことが必要である。
- 地域と一体となった高校づくりを進めるためには、教員不足に対して、民間や自治体の協力が必要である。
- 通信制高校については、N高校や仙台育英高校などの私立高校がより選ばれているため、定時制・通信制課程の在り方について検討する必要がある。

(2) 学校配置について

① 全日制課程について

- 現在、新郷村から公共交通機関を利用して通学できる県立高校は八戸西高校のみであり、その他の県立高校に通学する場合、下宿や親の送迎が必要である。中学校卒業予定者数が減少する中、統合し、ある程度の規模とした上で充実させていくことも考えられるが、その場合は、通学支援とセットで考える必要がある。
- 八戸西高校については高倍率を維持しており、三戸郡の生徒にとって通いやすい高校であるため、学級数を維持してほしい。
- 八戸西高校については、閉校となった五戸高校の近隣の生徒を受け入れる役割もあると考えるため、現在の規模を維持してほしい。
- 中学生は学びの内容より通学のしやすさを重視して高校を選んでいるのではないか。
- 中学校卒業者数が大きく減少する予定であり、高校の再編は不可避と考えられるが、後期実施計画で大規模な再編を行うことを前提に、前期実施計画では少人数学級編制により対応し、教育の質を高めることも考えられる。
- 三戸高校や名久井農業高校には三戸郡の生徒が多く在籍しているため維持してほしい。また、三戸郡から公共交通機関で通学することができる八戸西高校についても維持してほしい。
- 多様化している中学生のニーズに対応するためには、学級減ではなく統合による対応も考えられるのではないか。

- 通学のしやすさは重要な論点である。
- 少人数学級編制については、学級数を減らしたくないという感情論で議論を進めるのではなく、予算面も踏まえて検討を進めることが望ましい。

②定時制課程・通信制課程について

- 委員からは、特に意見はなかった。

(3) その他の意見

- 現在の高校再編のやり方を踏襲すると、いずれ高校がなくなり、若い世代にとって魅力的でない地域となってしまう。知事部局とも連携しながら今後の方針性を検討してほしい。
- 高校の魅力づくりを進めるためには人員の確保が重要であるため、サポート一等の確保に向けた財政措置をしてほしい。
- 本県の未来を担うことのことを考えると、高校の小規模化に合わせて教員数を減少させることは適当でない。
- 八戸市では全ての小中学校でコミュニティ・スクールを導入している。高校でもコミュニティ・スクールの拡充を進めてもらい、小中高で連携しながら地域の魅力を発信したい。

5 閉会